

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長	宮原 敏典	担当者名	篠原 祐木
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『団結心・連帯感を養う運動会の実施』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

主体的に集団や社会に参画する能力

取組のねらい

全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し，よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して，主体的に集団や社会に参画する能力を養う。

取組の具体的内容



- ・感染防止対策として競技内容の見直し
- ・年次ごとの壁画をグラウンドに展示（文化祭要素の取入れ）。
- ・新企画，3年応援団の実施。（写真）

取組の創意工夫

- ・保健体育科や企画総務部によって考え抜かれた競技内容の変更は，生徒が新しいことに取り組む楽しさを感じさせる機会となった。
- ・年次ごとの文化的な取り組みを行うことによって，生徒が自分たちと他年次を比較し，より良い集団にしようとするきっかけを作った。
- ・今年の運動会を盛り上げようとする有志を教員が全面的にサポートすることで，有志メンバーに達成感を与えることができた。

取組の成果と課題

学校評価アンケートを7月と12月に実施した。「私は，学校行事（儀式・文化祭・運動会・遠足等）の時には積極的または協力的に取り組んでいる」の肯定的な回答が73.2%（7月）から85.5%（12月）に向上した。この結果は，本校の学校行事が生徒たちにとって重要な役割を果たしていることを表している。一方で，今年の3年生が実現した集団による表現力を次年度で維持できるかどうかは，年次ごとの1年間を通じた取り組みに左右される。

どの年次においても，それぞれの学校行事に向けて協力して指導に当たることが課題となる。